

《短期大学》

桜の聖母短期大学

【就職できるコミュニケーション能力育成事業】

取組の概要【1ページ以内】

本学は1955年に設置したカトリック教育に根差した女子教育の短期大学として、「かかわり」や「共に生きる」心を持つ人材育成を行ってきた。その成果は、金融・栄養士・保育士、公務員等、幅広い職業人を地域社会に送り出してきたが、現在の厳しい雇用情勢の中、従来の教育内容・支援体制では、学生の就業力は低下し、社会的・職業的自立が困難となることが予測される。本事業では平成22年度に学生の就業力向上として「社会人として必要な力」と実践的な「専門的知識」を自主的に習得できる体系的・組織的な支援体制構築のため「共通教育検討委員会」を設置した。構成メンバーは、入試部長、教学部長、進路部長、編入学責任者、学務委員長とし、全学的な取組として以下の事業計画を策定した。本事業の特色は、入学前から卒業後まで、「共通教育」を中心とした以下の①～⑥の各取組をPDCAサイクルに則って、地域社会・時代が求める人材の変化に柔軟に対応できる短期循環型就業力育成事業である。

- ①**入学前教育で自主性を培う**：高校から大学への転換教育として、「新大学生のためのレポート教室」を、入学手続者を対象に全3回の構成で実施する。開講目的は、大学教育に必要な学習スキルを実践的に体感して学修に取り組む自主性を培う。
- ②**初年次教育と短期循環型リーダー育成**：1年次の2月に希望者を対象にリーダーシッププランニング研修を実施。自主性とリーダーシップを学んだ新2年生は、翌年度の新入生宿泊研修の全てを企画・運営する。新入生はオリエンテーションセミナーで自己理解と他者理解、傾聴力を培い、宿泊研修（1泊2日）において2年生から大学生活のガイダンスを受ける。企画にかかわる学生は企画運営の力など社会的な即戦力を養うことができる。
- ③**共通教育における循環型キャリア教育**：共通教育に新設する科目群「キャリアデザイン科目群」で自分の進路を自ら選ぶ力を付け、「ビジネススキル科目群」で実社会に役立つ知識を学ぶ。これら科目群の評価と再構築を②初年次教育、④診断テスト、⑤企業等の意見を反映し、時代の変化に即した授業へと改善する。
- ④**外部診断テストで個性・能力把握とキャリア教育へのフィードバック・進路指導への活用**：1年次7月に診断テストを実施し、自らの能力を客観的に把握する。1年次後期で、キャリアデザインとビジネススキル科目群の授業でコミュニケーション力向上に向けて学修する。2年次4月に診断テストを再度受け、半年間の自己の成長、強み・弱みを正確に把握する。また、この診断結果を共通教育のキャリア・ビジネス科目群に反映させるほか、就職・編入学の指導においても活用する。
- ⑤**地元企業との連携による実務教育（専門知識）と共通教育へのフィードバック**：地元企業との連携により実務教育に対する企業ニーズの把握や卒業生へのアンケートによって「企業が求める力」を再検証し、本学の教育内容に反映させる。さらに、卒業生の講師招聘やボランティア活動（共通教育科目・全学生必修30時間）、インターンシップ、学外実習等による現場での学びにより実践的知識の浸透を図る。
- ⑥**キャリア相談室の充実と顧問教員との連携による進路支援**：キャリア相談室（スタッフ3名）に新たにキャリアカウンセラーを配置し、スタッフおよび顧問教員との連携拡充を行い、今まで以上にきめ細やかな支援体制とする。

《短期大学》

聖徳大学短期大学部

【実学・実践による女性のコンピテンシー育成】

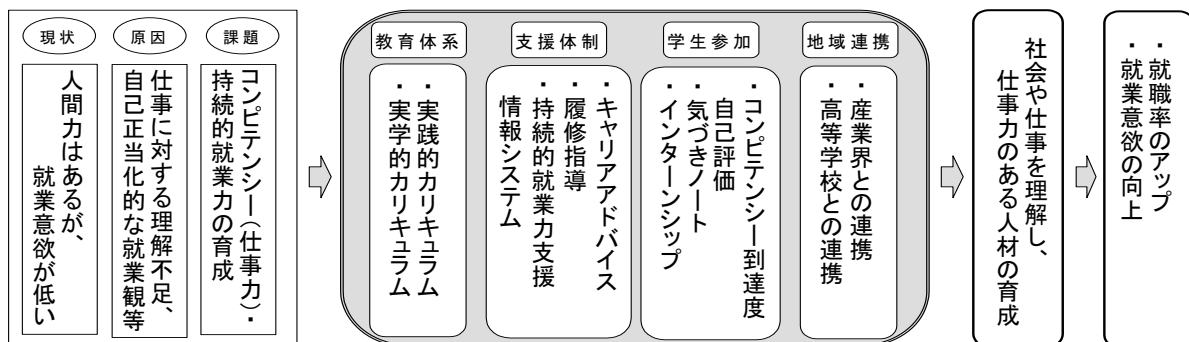
取組の概要【1ページ以内】

目的 最近、我が国の国力は少子高齢化に伴い長期低落傾向にある。これに対処するためには、未だ不十分な女性の社会進出の促進が不可欠である。本取組は、就業力の源を「コンピテンシー」(Competency 就業に対する適格性を備え、持続的に就業するために必要な能力＝仕事力) ととらえ、その能力を育成するための実学的・実践的教育体系を構築するものである。すなわち、**社会人講師の招聘**による実務的教育カリキュラム、**産業界との連携**による実践的教育カリキュラムを新設する。また、離職率の高い女性への対策として、卒業生に各種就業情報を提供するシステムを作る。これらにより、女性が自らの能力と就業することの意義を自覚し、社会の一員として生涯にわたり活躍することを目指す。

課題 本学総合文化学科では過去4年間、女性としての「人間力」の養成を目的としたキャリア教育を実践してきた。その結果、説得力、共感力といった総合的な人間力の向上では顕著な効果が見られたが、それが必ずしも就業意欲の向上に結びつかず、現実社会や仕事に関する理解の不足、「自分の好きなことしかしたくない」といった自己正当化的な労働観・就業観、「やりたい仕事が見つからない」といった現実逃避等の傾向が見られた。これは、とくに女子大生に著しい傾向である。その原因はコンピテンシーの不足・未熟にあり、その育成を図ることが喫緊の課題であると判断した。また、離職率の高い女性への対策も必須である。

具体的取組 本取組の特徴は、産業界で用いられているコンピテンシーの要素を分析して女子大生の就業に際して不可欠と思われる事項を抜き出し、それを達成することを要件として組み立てたことにある。具体的には、「実学的教育カリキュラム」によって仕事とその戦略への理解を育み、「実践的教育カリキュラム」によって仕事の遂行や対人活動、チームワークなどに関する事項の理解を進める。また、教職員によるコーチングスキルを利用したキャリアアドバイス体制の構築、履修指導体制の充実によって、学生のコンピテンシーの習得を支援する。一方、学生は「コンピテンシー到達度自己評価」や「気づきノート」の作成を通じて、自らコンピテンシーの到達度を確認し、自律的に「自己キャリア管理」を行う。教員は全員が学生に対するキャリアアドバイスを行えるよう**研修プログラム(FD)**を受講する。また、卒業生が離職しても再び就業しようとする活動を支援するために「持続的就业力支援情報システム(女性が生涯働き続けるための情報システム)」を構築し、卒業生に各種就業情報を提供する。さらに、高等学校生徒にキャリア育成に関わる授業を公開、**本学キャリア教育の“公”化**を図る。

本取組の概念図は次の通りである。



《短期大学》

千葉明德短期大学

【卒業後5年までの就業力育成プログラム】

取組の概要【1ページ以内】

本学では、これまで幼稚園教諭及び保育士の養成に積極的に努めてきた。県内出身の学生が多いため、卒業生は主に地域の幼稚園や保育所において就業し、多くは保育やその地域の子育て支援に関する業務を行っている。幼稚園教諭や保育士の免許・資格の取得のためには、専門知識の教育と併せて、現場実習を中心に専門的な技術や技能の修得が必要とされているが、本学では特に、幼児教育・保育・社会福祉等の「現場」での「体験」から学ぶことを教育課程の中心と捉え、実習等の体験学習から学生自身の成長につながるよう、指導に力を注いできた。

本学の卒業生が主に就職する幼児教育・保育・社会福祉の分野は、子どもをはじめとした様々な年代の「人」と関わる専門職である。しかし近年、社会や地域の変容とともに、少子高齢化問題や家庭支援業務等の拡大、様々な状況の人と関わるストレス、過酷な勤務体制や待遇等その他諸課題により早期に離職する者に加え、結婚や出産を機に退職をする者が多く、専門職の不足が業界全体の課題となってきた。

加えて、近年、学校の方針を理解してそれに積極的に参加しようとしている学生だけではなく、保育への希望はあるが課題を多く抱えている学生、目的も意欲も浅薄で自身の抱える課題が大きく、学ぶことが意識できない学生、幼児教育・保育や社会福祉の道に進まない者等多様な学生の姿がある。こうした違いは、生きてきた道程や環境によっても大きく左右され、社会や家族との関係や個人の持つ能力とも大きく関連する。

こうした様々な状況の中で、地域の保育を支える保育者としてのキャリア形成・就業力育成のためには、2年間の正規教育課程内の指導では不十分であると考え、本取組では、導入としての入学前キャリア教育、短期大学在学中のキャリア・コア・カリキュラムを中心に据えた保育の専門力の学修とその就学を支える一人ひとりに応じた支援、卒業後5年間に及ぶ卒業生キャリア支援の計8年間を支える取組や体制をメインテーマとした。具体的には、入学前から卒業後5年(25歳)までの「学びの創造プラン25」(キャリア・学習・学生生活を融合した総合的プラン)を作成し、学生と教員が随時それを中心に置きながら、目標・課題等の再検討・自己評価・改善等を行っていく。また、就業力育成に資する実習教育を中心に連携するキャリア・コア・カリキュラムを編成し、教育課程内の教科目間の様々な柔軟かつ有機的な連携・協働を行い、小規模短期大学ならではの、学生一人ひとりの状況やニーズに応じた支援体制を構築することを目指すものである。また、当然のことながら、地域の保育の担い手を「ともに育てる」「ともに支える」関係を構築し、産学連携の取組により就業力を育成する試みも教育課程の内外に据え、全学一丸となって、学生に内在する就業力を育成する。

入学前には、入学前キャリア教育や体験プログラム等の実施により、入学後～就職後の自身の姿も想像しながら、「学びの創造プラン25」の作成を行う。1年次には、教育課程の内外で「就業観」育成のための取組と、入学直後からの現場実習やその事前事後指導において、就業力の育成を行う。2年次には、1年次からの実習を2年次の実習に有機的に接続するとともに、教科目の連携・協働により、実習後から就業に向けた接続を行う。卒業後は、卒業後5年間、継続的に就業状況を把握し、集える場所の提供、情報提供、相談支援、研修・学習支援等のプログラムを実施しながら、一人ひとりの状況に応じたリカレント教育と再就職等に向けた卒業生キャリア支援を行っていく。

《短期大学》

植草学園短期大学

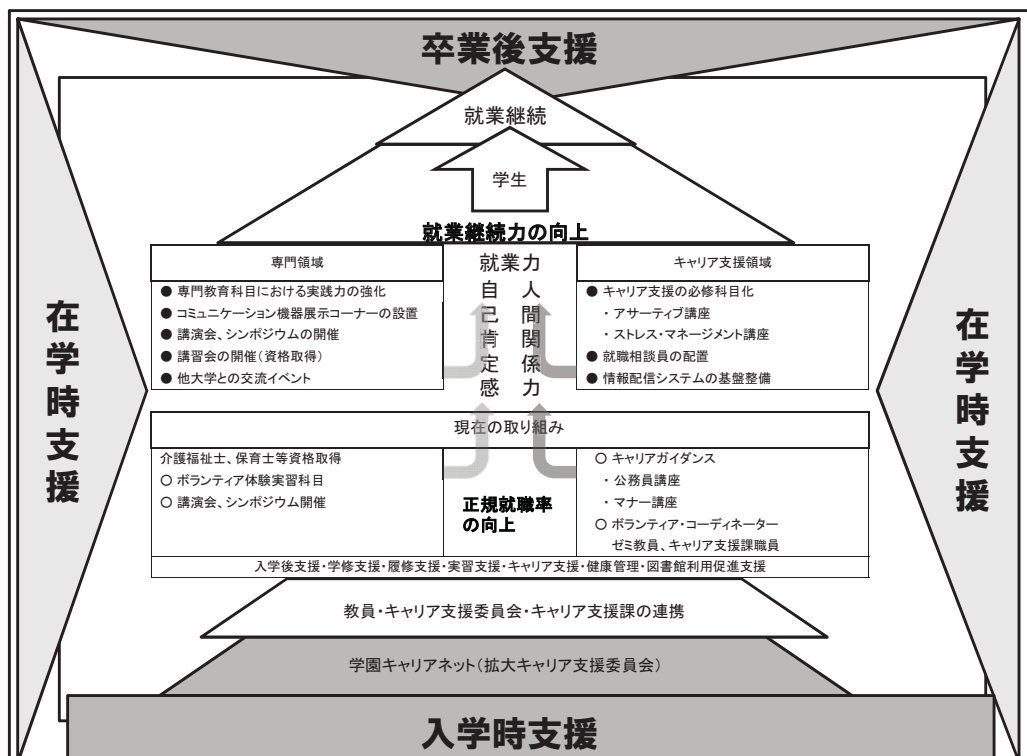
【専門性をコアとした就業継続力の育成】

取組の概要【1ページ以内】

本事業のねらいは、入職後の保育・介護職場における正規職員の就業継続力を育成することである。学生の社会的・職業的自立にむけて、正課内外において従来本学が取り組んできたことを精査すると、就業力を培うために専門教育の見直しとキャリア形成力を付加することが必須であった。さらに、卒業生の離職の現状分析では、「人間関係力」に問題があることが明らかになった。現代の学生はコミュニケーションが苦手な人が多い。社会において、職場においても人間関係を維持するためには、自己肯定感を自己の中に確立する必要がある。しっかりと自己を肯定できること、そのことが人間関係力をつけ、就業後のキャリア形成の基となると思われる。そのような人間関係力形成の視点からキャリア形成を築くため次のような事業に取り組む。

- ①専門科目における実践力の強化。特にコミュニケーション技術を強化する。コミュニケーション機器を活用できるように機器展示コーナーを設け、実践力をつける。
- ②キャリア支援の必修科目化。今まで単発的に取り組んできたことを必修科目とする。初年次教育としてマナー講座や文章の書き方、ロールモデルの紹介などをする。
- ③講演会・シンポジウムの開催。施設職員にも公開し、専門技術、キャリア形成等を学ぶ。
- ④講習会の開催と他大学生との交流。本学の強みを他大学生に提供するとともに、本学学生にとって、交流により就職のイメージを広げ、自己肯定感を向上させる機会とする。
- ⑤就職相談員による相談支援。就職前と就職後のキャリア形成フォローを行う。
- ⑥学園キャリアネットの設置。事務局全体で、キャリア支援する。
- ⑦卒業生の実態調査。就業状況の実態把握をし、本事業の効果を評価する。
- ⑧各事業と全体の評価。

本取組における全学支援体制による就業継続力形成図



《短期大学》

和泉短期大学

【保育就業力向上推進プログラム】

取組の概要【1ページ以内】

本学では、建学の精神を基に、人権感覚溢れ、様々な世代の人々とコミュニケーションがとれ、世界の出来事に向けて自ら考え、学び、行動する保育力を兼ね備えた人材を育成することを教育目標として取り組んできた。又、建学以来50年以上、地域の児童福祉・保育・幼児教育の現場に有為な人材を輩出し、地域で信頼を得てきた。

しかしながら、現代社会における地域・家族の変化に伴い、保育者は家庭の養育力の補完を求められる傾向にあり、保育者が家庭支援を含むより専門的な能力を有することが求められるようになった。一方、ゆとり教育世代の基礎学力の低下と家庭の教育力の低下に伴い、短期大学における限られた修学年限の中で保育者として高い就業力を持つためには、教員・卒業生などによる一貫性のある、これまで以上に総合的で循環的な支援が求められる。これを「育てられる者」として保護されてきた学生、「育てる者」としての保育就業力を向上するための「カルテ」として担当を超えた包括的な取組が必要となる。

取組は、自立的な就業力が高い保育者を輩出するための、「履修カルテ」（以下、「カルテ」と略す）と「ライフデザイン・ワークファイル」（以下、「ファイル」と略す）をツールとした、入学前から卒業後までの循環的キャリアデザインプログラムである（図1参照）。学生は「カルテ」を通じて自己の教育・実践の記録を収め、自己診断と担当教員による診断に基づき、次の学びの方向付けの支援を受ける。「ファイル」には、「基礎学力」「基本的生活習慣」「生活技術」「保育技術」「子ども・家庭支援」「キャリアデザイン」の分野別に、教科を超えた就業意識や保育技術の習得の成果を記録し、ファイルしていく。2年次には、学外実習（保育所・幼稚園・児童福祉施設）や新設科目「保育・実践演習」に向けて、「カルテ」「ファイル」を完成させ、実践演習に備える。「カルテ」「ファイル」を介して、グループアドバイザーは学生と面談を重ね、学生は定期的な就業力を自己評価し、より実践的な就業力を向上させてゆく。さらにそれらの記録時には、本学の学生が苦手とするパソコン入力の支援もしていく。

1年次から始まる「進路支援講座」では、子ども・大人とのコミュニケーションの取り方や、保育者としてのマナーを身につけ、保育現場で実習、インターンシップを行い、将来の職場選択を考えていく。進路決定後の卒業直前講座では、就職直後の職場での振舞いなどについて実践的に学び、就業定着率の向上につなげる。卒業後は、卒業生の保育就業力を評価し、定期的に卒業教育「キャリアアップ講座」やリカレント講座を開催し、保育現場と養成校の連携を図る。又、一度職場を離れた保育者の再就職の相談にも応じる。

取組の第2の柱は、学生の保育就業力を高めるための「和泉子ども・家庭大学」の活用である。本学では、平成18年より地域の子育て支援活動として、月1回子育てサロン「はっぴい」を開催し、FM放送の子育て相談番組を担当してきた。今後は、子育てサロンを常時開催の地域子育てひろば事業（以下、「ひろば」と略す）に発展させ、全学生が日常的に「ひろば」に参加し、保育技術・家庭支援力を向上していくことを目指す。さらに、学生のみならず、地域の子育て支援者を再教育・養成する拠点となることが期待される。最後に、学生の保育就業力の向上には地域との連携が必要である。本学は、これまでも相模原市と連携して子育て支援プログラムや児童虐待防止推進月間（オレンジボン・キャンペーン）の取組を展開してきた。今後も、相模原市と協同で、子育て支援、児童虐待防止、障害児福祉などの活動を発展させ、学生・保育者の保育就業力を向上させたい。

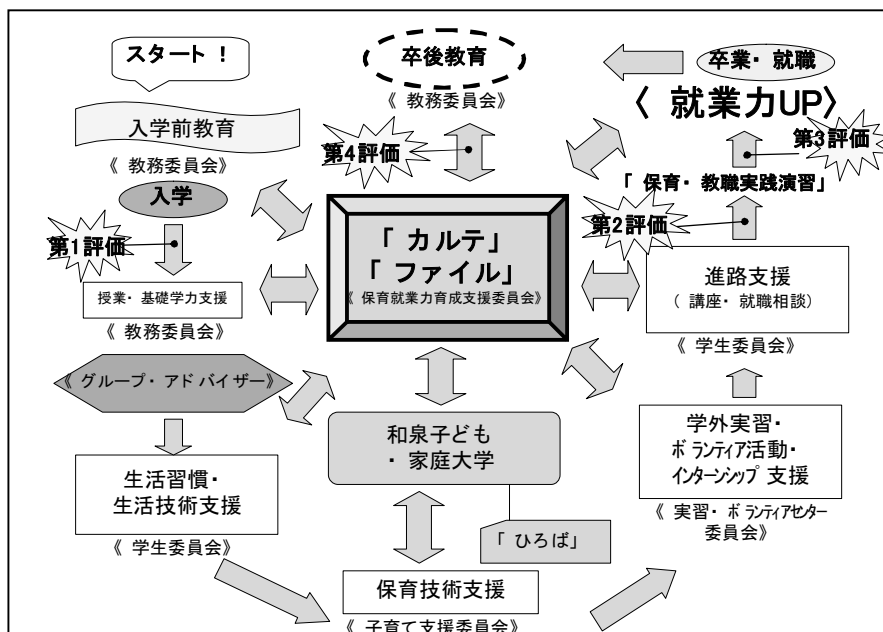


図1「保育就業力UP循環プログラム」